

「脳血管疾患に関する事例」タイムスケジュール

| 時間 | 修得目標 | 講義のポイント | ミニワークテーマ | ミニワークのポイント |
|----------------------|--|--|---|------------------------------|
| 10:00~10:05 | 導入 | 研修記録シートの目標を確認 アイスブレイク | | |
| 10:05~10:55 (50分) | 第1節 脳血管障害の特徴 第2節 脳血管障害の後遺症と生活機能への影響 第3節 脳血管障害における療養上の留意点や起こりやすい課題 | 1. 脳血管障害の特徴について説明できる 2. 脳血管障害における生活障害の特徴について説明できる 3. 血管障害における療養上の留意点や起こりやすい課題について説明できる ○脳血管障害に関する医療的知識について ・脳血管障害の分類、症状、診断・治療などについて ・生活障害と心身障害、廃用症候群等について ・ケアマネジメントに必要な医療的情報、リスクなどについて ○脳血管障害と医療的ケアについて | ミニワーク(10分) 指導者より提示されたテーマについてミニワークを実施する | 地域の社会資源の把握度を測る 理解度を測る |
| 10:55~11:05 (10分) | 休憩 | | | |
| 11:05~11:55 (50分) | 第4節 脳血管障害における環境の調整(福祉用具・住宅改修を含む)の必要性 第5節 脳血管障害におけるリハビリテーションの必要性 第6節 医療職をはじめとする多職種との連携・協働のポイント | 脳血管障害における環境の調整(福祉用具・住宅改修を含む)の必要性について説明できる 脳血管障害におけるリハビリテーションの必要性を説明できる 医療職をはじめとする多職種との連携・協働のポイントについて説明できる ○住環境調整 住宅改修、福祉用具、住環境調整の際のポイント ○家族に対する対応 高齢者ケアの原則、介護する家族への支援の必要性 ○その他 ○脳血管障害のリハビリテーションについて ・医学的リハビリテーションとリハビリテーション前置の考え方について ・リハビリテーションチームと各専門職種の役割について ・介護保険でのリハビリテーションやその他のサービスについて ○チームアプローチについて | ミニワーク(10分) 指導者より提示されたテーマについてミニワークを実施する | 理解度を測る |
| 11:55~12:55 (60分) | 昼食・休憩 | | | |
| 12:55~13:30 (35分) | 第7節 脳血管障害の特性に応じたケアマネジメントの具体的な方法 | ○ケアマネジメント各プロセスにおける留意点 ・脳血管障害の利用者によく見られるよう状況やポイント ・特に見落としがちなポイントについて | | |

※ミニワークについては、適宜実施するものとする

「脳血管疾患に関する事例」タイムスケジュール

| 時間 | 修得目標 | 講義のポイント | ミニワークテーマ | ミニワークのポイント |
|--|--|--|---|------------|
| 13:30~15:35 (125分) (適宜休憩含) 第7節 脳血管障害の特性に応じたケアマネジメントの具体的な方法 | 脳血管障害の特性に応じたケアマネジメントの具体的な方法を実施できる | <ul style="list-style-type: none"> ○演習の説明 <ul style="list-style-type: none"> ・事例の概要、支援記録（相談記録）、基本情報 ○脳血管障害に関する事例の情報収集のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・事例の読み込みから、どんな情報が必要であるか抽出する ○脳血管障害に関する事例の情報収集と課題抽出ポイント <ul style="list-style-type: none"> ・情報が不十分な事例のアセスメント記録、ケアプラン例 ・情報が不十分な事例から、必要な情報が得られているかを分析する ・情報収集と分析、課題抽出の問題点を理解する ○脳血管障害に関する事例の情報収集と課題抽出のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・情報を追加した事例のアセスメント記録、ケアプラン例 ・情報が追加されたことで、整理・分析、課題抽出にどう影響したか | <ul style="list-style-type: none"> 1. 初期面接相談での情報収集の視点 <ul style="list-style-type: none"> ①必要な情報及び注意点 ②なぜ必要なのか（エビデンス） ③情報収集の方法 2. 情報の整理と不足情報確認の視点 3. 自立した日常生活の障害要因と今後の可能性を探る視点 4. 今後の見通しと解決すべき課題抽出の視点 5. 検討されたニーズ・目標の比較検討 <p>時間配分 個人ワーク（10分） グループワーク（10分）</p> | |
| 15:35~15:55 (20分) | グループ発表 | | | |
| 15:55~16:10 (15分) | 第8節 地域包括ケアシステムへの展開 第9節 継続学習の必要性と、具体的な学習方法 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 住まい 2. 医療 3. 介護 <ul style="list-style-type: none"> 1. 継続学習の必要性 2. 具体的な方法 | | |
| 16:10~16:30 | まとめ 振り返り | 全体を振り返り、ポイントについて講義 | | |

※ミニワークについては、適宜実施するものとする

演習 初回面接相談時の情報収集の視点

◎初回面接相談で、どのような点に注意して情報を得る必要があるか、その理由も含めて考えてみましょう。

◎本人・家族から聞き取りや場面、主治医、リハビリ担当者、医療ソーシャルワーカーなどからの情報収集の方法についてもまとめてみましょう。

| 必要な情報・注意点 | 理 由 | 収集の方法 |
|-----------|-----|-------|
| | | |

演習 情報の整理と不足情報確認の視点

◎佐藤剛さんの支援経過②と基本情報に関する項目、主治医意見書、アセスメントに関する項目（チェックポイントシート）の情報を確認し、居宅サービス計画書を作成していくうえで、特に自立支援の視点を踏まえて、補足することが必要な情報や、不足している情報・視点について検討しましょう。また、それらが必要な理由や収集の方法についても考えてみましょう。

| 不足している情報・視点 | 理 由 | 収集の方法 |
|-------------|-----|-------|
| | | |

演習 自立した日常生活の阻害要因と今後の可能性を探る視点

- ◎補足された情報も踏まえて、課題整理総括表の左側を用いて、課題の整理をしてみましょう。
- ◎「状況の事実」の「現在」（自立・見守り・一部介助・全介助、または 支障なし・支障あり）の状況を踏まえて、「自立した日常生活の阻害要因」となる心身の状態や環境等について、できるだけ具体的かつ簡潔に記載しましょう。
- ◎現在の状況が「自立」あるいは「支障なし」以外の場合は、「要因」欄にどういった阻害要因が該当するか番号を記入していきましょう。
- ◎聞き取りや事実の確認、主治医や専門職等からの情報（補足された情報も含む）をもとに「改善/維持の可能性」の選択肢に○をつけましょう。
- ◎「備考（状況・支援内容等）」に、具体的な状況や実施されている支援内容などに不足があれば書き加えましょう。

演習 今後の見通しと解決すべき課題の抽出の視点

- ◎これまでの演習を踏まえて、課題整理総括表の右側を使って検討を加えていきます。
- ◎「見通し」の欄を使って、先に行った「自立した日常生活の阻害要因」及び「改善/維持の可能性」の内容を踏まえ、要因を解決するための支援内容とそれが提供されることによって見込まれる事後の状況（目標）を記載しましょう。
- ◎「生活全般の解決すべき課題（ニーズ）【案】」を記入し「※6」に優先順位を数字で記入します。解決が必要であっても、この計画期間に取り上げることが困難な課題には「－」印を記入します。

演習

検討されたニーズ・目標の比較検討